

## 楽譜

「新しい世界を  
見つけること」

演奏学科鍵盤楽器専修(ピアノ) 4年

我有春香

皆さんはオーケストラスコアを目にしたことがありますか？

音楽に携わる人の多くが、楽曲を演奏するため、ハ音記号で書かれた楽譜を読む練習や指揮の勉強のためなど様々な場面でスコアに出会ったことがあると思います。

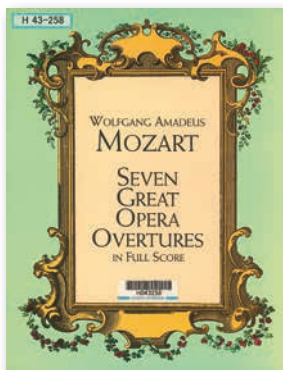
実は私は、「スコアつて段数が多くて難しそうだし、とつつきにくい！」と思っていましたが、コレペイトル(オペラ歌手のコーチをする人のこと)に興味を持ち、勉強を始めてからは、スコアがまるで「料理のレシピ」のように思えるようになりました。

「おいしい！」と感動したカレーのレシピを手に入れ、材料を見てみると、隠し味として沢山のスパイス、更にチョコレートまで入っていることに気がきます。完成した料理を食べるだけでは分からない「おいしい」の秘密に、レシピを見て初めて気付くことができるのです。そして今度は自分で作ってみよう、と思った際に、「スパイスは香りの良いものを多めに、チョコレートは少しだけ」と工夫することで、考え抜かれた自分だけのカレーが出来上がります。

これは音楽も同じだと思います。私が紹介する楽譜、「Seven great opera overtures」には、

W.A.モーツァルトの7つの有名なオペラ(イドメネオ、後宮からの誘拐、フィガロの結婚、ドン・ジョヴァンニ、コジ・ファン・トゥット、魔笛、皇帝ティートの慈悲)の序曲のフルスコアが収録されていますが、中でも私は「魔笛」の楽譜が好きです。ただ楽譜を眺めているだけでも、ヴァイオリンから、ヴィオラ、チェロ：と主題が受け継がれ、次々に音色が変化していくことや、ヴォーカルスコアでは演奏しやういようにオクターブの範囲で書かれた和音も、実際には数オクターブに渡る重厚な響きを持つていることに気がきました。自分の目でスコアを見て何かに気付く、改めて聴いたり演奏したりすると、音の世界が広がる感覚を味わうことができます。この楽しさを多くの音楽愛好家に伝えられるようになりたいと思い、私はスコアを読んで勉強を続けています。

皆様も是非この楽譜を手に取り、モーツァルトの美しい音楽の秘密と、自分なりのスコア活用法を見つけてみてください。



Mozart 『Seven great opera overtures』 Dover 1998  
請求記号●H43-258

●がうはるか 4年間ほぼ毎日、図書館にお世話になりました。朝、職員の方と挨拶するご日々気持ちよく過ごせました。

## BOOK

## 絵本を改めて読む

音楽教育学科 幼児教育専攻 4年

蓮池莉子

絵本は小さいころに両親に読んでもらった、自分で読んで読んで以来、すずんで読んで読むことはなかった。絵本は字が少なく、幼児が読むものと周りから言われてきたため、小学生から高校生まで触れずに来た。大学生になり集中講義で様々な絵本を知り、興味は高まった。しかし私は一人暮らしで絵本は持ってきていないし、本屋に行くはずら一つと並んでいて、どれに手をつければいいのか分からなかった。そんなとき、図書館に絵本が置いてあるのに気付いた。少ないが厳選された絵本があり手を取りやすい。何気なく見ていると懐かしい絵本があった。それは「100万回生きたねこ」。

この絵本の主人公は100万回死んで100万回も生きたねこである。ねこは王様のねこだつたり、船乗りのねこだつたり、サーカスの手品つかいのねこだつたり泥棒の猫だつたりした。ねこが死んだら飼主たちは皆悲しみ、ねこを埋めた。あるときねこは誰のねこでもなかった。どんな雌ねこもお嫁さんになりたがったが、ねこは見向きもしなかった。ある日白いねこに出会い、ねこは恋をした。

白いねこは子猫をたくさん産んだ。ねこは白いねこ子猫のことを自分よりも好きだった。あるひ、白いねこはねこの隣で動かなくなった。ねこは100万回泣いた。そしてねこも動かなくなった。その後ねこは決して生き返らなかった。というお話である。

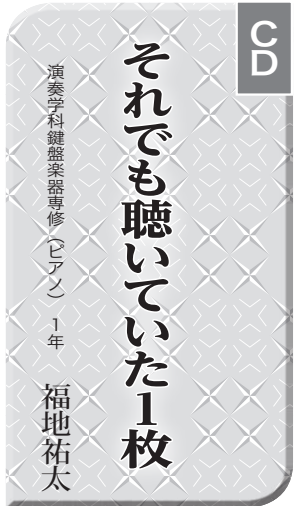
この話は小さい時大好きで、よく読んでいたものだった。小さい時は「100万回も生き返る面白いねこがいて、好きなねこができたら死んじゃったんだ」とあまり深く考えたことはなかったのだが、久しぶりに手に取って読んでみると恋と死の悲しさが想像でき、小さい時とは違った感動があり胸が熱くなった。

絵本は、今必要なことが書いてあったり多様な知識が得られたりするわけではないが、様々な世界を知ることができるものだと思う。様々な世界に浸ることのできる身近なもののひとつとして「100万回生きたねこ」をお勧めしたい。



「100万回生きたねこ」  
佐野洋子 作・絵 講談社  
請求記号●L001103

●はすいけりこ この絵本を読んでもまた泣きそうになりました。読むたびにじわっとくる絵本はなかなかないと思います。自分がお母さんになってから子供に読んであげたい一冊です。



「ピアノをやめなさい」。

これは、大学に合格したことを知り一安心していたところ、ある方から言われた言葉でした。これだけを読むとひどく聞こえますが、ちゃんと理由があります。私には生まれつき親指に問題があり、それを考慮した上でのことでした。厳しくもすぐく考えてくださってるのだなど、悲しかったけれど、一方で感謝の気持ちに溢れました。

その言葉には続きがあり、「治すなら受験が終わった今がラストチャンスだ。これで治らないなら大学もやめなさい。」と言われました。もう最後ならやれること全部やって後悔しないようにやめようと、それから色々なことをしました。何ヶ月も試行錯誤していましたがやはり不安でした。どの病院に行っても治す方法なんて見つからず、自分でやるしかありませんでしたし、そのやっていたことが正しいのかもわからないし、良い形になったとしてもピアノが弾けるほどになるとも考えられず、精神的にもすごく辛い時でした。

そんな中、聴いていたのがこのCDです。先ほどの方がボックスで下さったのですが、ピアノを続けられるかわからないそんな中でも、ピ

アノを聴きたくなかった・弾きたくなかったことは、今思うとわずかながら誇らしく思います。賢いとは到底言えませんが(笑)

ピアノ・音楽というものは本当に面白いものだと思います。この言葉が適切かどうかわかりませんが、何となくなら自分より上のレベルはわかる。でもわかっていたようであってなかったことに成長してから気づく。そんな体験はないでしょうか。

私はこのCDで演奏しているエミール・ギレリスと、CDを下さったピアニストに特別なものを感じます。本当に当たり前な話なのですが、自分が成長すればするだけ遠くにいたことに気づかされます。遠くに離れていく感覚とでも言うのでしょうか。40年後50年後にこんな方々みたいな演奏をしたいという憧れもあります。

CD紹介と共に勝手ながらこの場を借りて心からお礼を申し上げます。今も私はハリハリ中ですが今の自分を認めて一歩ずつ精進して参ります。

私の聞いていたボックスは図書館になかったので、オススメの1枚を選びました。2曲とも素晴らしいです。是非聴いてみてください。



Beethoven  
『ピアノソナタ30番・31番』  
Emil Gilels Deutsche  
Grammophon  
請求記号●XD31467他

●ふくちゆうた 大学生生活もだいぶ慣れてきました。この4年間には充実した毎日を送ると思います。